

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2394500041		
法人名	社会福祉法人 かなえ福祉会		
事業所名	グループホーム すないの家尾張旭 (ききょう)		
所在地	尾張旭市柏井町弥栄256番1		
自己評価作成日	平成30年2月6日	評価結果市町村受理日	平成30年4月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2394500041-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2394500041-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成30年2月28日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>私たち職員は、安心できる空間を提供し、常に「親しき仲にも礼儀あり」を心にとめ楽しく、穏やかに生活して頂けるように努めます。</p>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>ホームは、特別養護老人ホームと同じ建物内に併設して運営されている。併設型の利点を活かしながら、合同で運営推進会議を開催したり、職員研修の取り組みをはじめ、地域の方や行政機関等の外部の方との交流等の取り組みが行われている。運営法人では、今年度より新たな基本理念の策定を行っており、「謙虚、献身、堅実」の3つの基本方針を掲げながら、職員より利用者への支援の基本とする取り組みが行われている。利用者の医療面での支援については、訪問診療専門の医療機関との密な連携が行われているが、当事業所では、今年度より利用者の入院対応を柔軟に行うことができる医療機関との連携を始めている。複数の医療機関と連携しながら、利用者の健康状態に合わせた医療面での対応が行われており、重度の方への支援を行いながらホームでの生活の継続につなげている。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	就業中に携行する、社員証の裏面に、理念を印刷し、日頃より意識づけている。	運営法人により、今年度、新たな理念の策定が行われており、当ホームでも職員による支援の基本に掲げている。ホーム独自の理念の作成や職員個人で目標を立てる取り組みを行っており、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	保育園・消防の方とのふれあいをし、地域とのつながりに努めている。	地域の方との交流については、併設の特養を含めた事業所全体で取り組みが行われている。地域の行事に事業所全体で参加する取り組みや地域の保育園との交流会が行われており、園児の訪問も得られている。	事業所建物内には、地域交流スペースがあるが、現状、十分に活かされていない。今年度より、地域の方の勉強会にも活用されており、今後の取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方々の相談を、365日受けれる様に体制を整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	入居者の、日頃の様子やサービスについての報告し、話し合いでいただいた意見を参考に、サービスの向上に努めている。	会議は、併設の特養との合同で開催しており、出席者に事業所全体の取り組みを知ってもらうような報告が行われている。会議は土曜日に開催しているが、市職員と地域包括支援センター職員の出席が得られており、情報交換の機会にもつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	毎月の会議以外にも、制度変更などの時は、運営推進会議で家族様からの質問に答えて頂くなど、協力関係を築くように努めている。	市内の介護事業所が集まる連絡会等の際には、ホーム管理者も参加する機会をつくり、情報交換等につなげている。併設事業所とも連携しながら、地域ケア会議への出席も行われている。また、市内のグループホームとの交流の取り組みも行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員全員で、勉強会を通して、具体的な行為を理解し、ケアに取り組んでいる。	ホームが入るフロアの出入り口には施錠を行っているが、ホーム内には施錠を行っておらず、職員間での利用者の見守りが行われている。また、ホーム独自での勉強会を通じた職員の振り返りが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員や利用者との会話や行動を把握し、注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会など行っているものの、職員の理解は不十分。家族がいない方などには、成年後見関係機関等への支援も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	常に、本人様家族様の意向を第一に考え、話し合い十分な説明を行い、理解納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設置したり、365日事務所を開放し、いつでも相談が受けれる様に工夫している。頂いた意見に対しては、迅速な対応に努めている。	家族からの要望等については、ホーム管理者の他にも、事業所の相談員や施設長による対応も可能な体制がつくられている。また、年4回の事業所全体のホーム便りの発行が行われている。	現状、家族との交流会等の取り組みが行われていない。家族への情報発信の機会も限られているため、今後のホームの取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見や提案を常に聞くように環境を整え運営に反映させるよう努めている。	毎月のユニット会議が行われており、職員からの意見等を管理者が把握し、運営につなげる取り組みが行われている。なお、今年度よりホーム管理者が交代しており、管理者は現場の介護職員と兼務していることで、職員との関係がより柔軟になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の勤務状況等を把握し、介護技術の向上や向上心を持って働き続けられる様に、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外問わず、研修に参加できるように努め、また、毎月勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他事業者を招いて、勉強会を実施し、ケアの方法業務の取り組み方について意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人の要望を傾聴し、安心して暮らせるように関係づくり、課題点の解決に努めている。また、何でも話せる環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の要望を傾聴し、安心して信頼して頂ける関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族が必要とする支援に対して、優先順位を見極めて対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人のADLを考慮し、暮らしの一環とした家事等各人の出来る範囲で参加し易いように取り組んでいる。家事等の作業を他利用者と共同で行う事でコミュニケーションを図るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族・本人との関係性を大切に、面会時など、出来る限り、日頃の様子を伝え、今後の支援方法などの確認、話し合いに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	施設内にゲストルームを設け、寝食を共にして頂けるようにしている。また、近隣施設への外出や面会時間外に対しても出来る限りの対応に努めている。	利用者の中には、入居前からの関係の方がホームに訪問する機会が得られており、馴染みの方との関係継続にもつながっている。また、家族との外出の機会がつけられており、食事や買い物をはじめ、時には自宅に戻り、家族と過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を把握し、レクリエーション等を通して、他者への理解を深め、支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスの利用が終了しても、出来る限りの相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	受容と傾聴を心がけて本人の意向を聞き取ったり雑談を通して、求めている思いを把握し、QOLの向上に努めている。	職員間で利用者を担当する取り組みも行いながら、利用者の意向等の把握につなげている。毎月のユニット会議を通じたカンファレンスの取り組みが行われており、利用者の意向等を日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人の言葉や家族からの聞き取りを通し、暮らしやすい環境等を作っていくよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の様子をケース記録、申し送り等で、情報を共有し、現状把握に努め、1日の過ごし方を考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアミーティングを通し、ケアの改善に努めるとともに、家族の思い、また本人の要望を含めて介護計画を作成している。	介護計画は6か月での見直しが行われており、状態変化に合わせた見直しも行われている。モニタリングについては、担当職員も参加しながら毎月実施している。また、利用者毎に記録用紙を用意しており、介護計画に関する日常的なチェックも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録、情報の共有はできているが、介護計画の見直しや実践に反映できていない所もあるので、反映できるように努める。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人のニーズに対応できるように検討し、家族の状況をふまえ、可能な限りの対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の中で生活をしている事を、感じて頂けるように、ケアの工夫に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診対応に加え、他医療機関希望の方には、今まで通り受診して頂くと同時に出来る限りの協力を努めている。	協力医療機関との柔軟な協力関係を築いており、定期的な訪問診療の他にも随時の対応も可能な体制がつけられている。また、今年度より、協力医療機関とは別の医療機関との連携を始めており、随時の入院等、医療面での柔軟な協力関係をつくっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	法人内チームDrや併設する特養の看護師と連携を図り、日常の健康管理から、日々の変化まで把握し、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院をスムーズに行えるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談などを行い、関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合、法人内チームDrや併設する特養の看護師と一緒に、今後の治療、ケアについて話し合い、本人や家族の思いが叶う支援に努めている。	利用者の状況等にも合わせた支援を行うことを家族に説明している。新たな医療機関との連携を深める等、重度の方に対応した取り組みも行われている。利用者の身体状態に合わせた家族との話し合いを行いながら、意向に合わせた支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	毎月行われる勉強会で、対応や防止対策を身につけられる様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	併設の特養と一緒に、避難訓練を定期的に行っている。災害時には交流ホールを開放し、住民の避難受け入れも行っている。	年2回の避難訓練については、特養との合同で実施しており、夜間を想定した訓練の実施や通報装置の確認が行われている。訓練の際には、消防署職員の協力も得られている。また、特養と合同で水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	事業所建物は、地域の福祉避難所でもあり、非常災害時における地域の方の受け入れも想定している。事業所全体での地域の方との協力関係の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	取り組みは不十分であるが、委員会を設けたり、職員同士で注意している。	法人の新たな基本理念には、利用者への「献身」も掲げられており、職員による利用者への対応の基本にもつながっている。また、専門の委員会を通じた接遇面での取り組みや職員の振り返りの機会がつけられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	認知症高齢者の場合であっても、極力その人らしい自己決定を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	決まりやルールを無理強いすることなく、一人ひとりにあった生活支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	清潔保持や整容はともかく、おしゃれの支援までは行き届いていないものの、本人の着たい服を選んでいただくよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	厨房による食事提供のため、準備など一緒にできないが片付けの際は洗い物をしていただいでいく等に努めている。	日常の食事については、事業所の厨房から提供されており、利用者の身体状態に合わせたミキサーやトロミ等の対応も厨房により行われている。また、時にはホームでのおやつ作り等の取り組みが行われており、利用者も可能な範囲で参加している。	食事に関するホームの関わりは限られた範囲となっているが、職員間で検討を重ね、徐々に取り組みを増やしている。利用者も参加したおやつ作りの取り組みが増えることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	無理強いせず、個々の食事量や水分量については、注意して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	義歯の管理も含めて、支援の必要な方の口腔状態は、相当程度把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄パターン・習慣を活かし、少しずつであるが自立へ向かうよう努めるのと同時に必要であればこまめな誘導をするよう心掛けている。	利用者全員の排泄状態の記録を残しており、日常的に職員間で情報を共有しながら、一人ひとりに合わせた排泄支援に取り組んでいる。各居室内にトイレが設置されており、ベッドの配置等、トイレでの排泄が継続できるような職員間での検討が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	散歩をしてもらったり、こまめな水分補給をしていただくなどして予防に努める。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	週2回の入浴はできている。また希望があれば曜日・希望日を聞き、できる限り応えられるように支援をしている。	入浴は週2回となっているが、時間については、午前と午後に対応している。浴室はフロアから離れた場所にあり、外出する気分で入浴への案内を行っている。また、浴室内に特殊浴槽や機械浴が設置されており、重度の方にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	服薬については、大まかな所は理解しているが、実際の副作用までは理解していない。日常的に症状の変化がないかなどの見守りをするようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬については、大まかな所は理解しているが、実際の副作用までは理解していない。日常的に症状の変化がないかなどの見守りをするようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	十分ではないが、役割を持って頂いたり、趣味に応じたレクに参加してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的にはではないが、レクリエーションの一環として外出を計画し実行している。	事業所建物の設置場所の制約もあり、日常的な散歩等の外出支援は難しいが、職員間で外出先を検討しながら外出の機会をつくる取り組みが行われている。季節に合わせた花見や公園等への外出の他にも、喫茶を楽しむ取り組みが行われている。	ホームでは、利用者の外出の機会をつくるように、職員間での検討が行われているが、現状は、限られた範囲となっている。職員間での検討を継続し、利用者の外出の機会につながることを期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	訪問販売で買い物は楽しんでもらっている。お金の所持は、トラブル回避のため基本は禁止し、施設が立て替える。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙が書ける方にはそのようにしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロア等の共有スペースには季節感を楽しんでもらえるように折り紙などを利用している。	ホームのフロアーが事業所建物の上階にあることで、リビングは採光に優れており、利用者が日中を明るい雰囲気過ごしている。また、リビングやユニットをつなぐ通路の壁には、季節感に配慮した飾り付けや利用者の作品等の掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	2~3人掛けのソファを置き、くつろいでもらっている。また、トラブル回避の為に席を変える等の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室で、居心地良く過ごせるように、随時ご本人の意向に気を配っている。	居室は広く、トイレと洗面台が設置されることで、プライバシーに配慮された生活環境となっている。シンプルな雰囲気の居室の方もいるが、利用者の中には、入居前からの使い慣れた家具や道具類の持ち込みが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	残存能力を活かし、その方のできる形でおこなえるように支援している。		